

令和8年度 唐津市立巖木小中学校 校内研究

I 研究主題

「自ら学び、仲間や地域とともに未来を拓く児童生徒の育成」
～ 9年間の系統性を意識した生活科・総合的な学習の時間を通して ～

II 研究主題設定の趣旨

昨年度までの2年間の研究テーマを「主体的・協働的に学ぶ児童生徒の育成～9年間の系統性を意識した学習づくりと心づくり～」とし、研究を行ってきた。

まず、「学習づくり」においては、各教科における9年間の系統性や単元の内容を見通した授業のあり方に焦点をあてて、取組を進めた。特に、年間を通した小中相互乗り入れ授業、ラーニング・マウンテンの共通実践、9年間を見通した系統表の作成・活用などに取り組んだ。

次に、「心づくり」においては、立腰教育、家庭学習の充実へ向けた取組、小中合同学校行事など9年間で児童生徒の心を育む実践をした。

「学習づくり」と「心づくり」の柱を中心に研究と取組を進めたことで、小中間の結びつきもかなり強まり、児童生徒に対する互いの情報の共有ができ、小中の職員が9年間を見通しながら児童生徒を育成しようとする意識が高まってきた。アンケート結果をもとにした児童生徒の意識の変容からも、研究の成果がうかがえた。

一方、課題としてさらなる言語活動の充実と表現力育成につながる取組や、授業での学びを家庭学習へつなげる取組の工夫を行っていく必要性が表出した。

本校の児童生徒は、単学級で9年以上にわたり同一のコミュニティで過ごし、円滑な関係を築いている。一方で、人間関係が固定化され、発言をしたり、人前に進んで出たりするのは特定の児童生徒となっている。そのため、自らの考えを発信したり、他者とつながったりする力が弱い傾向にある。

他者との関わりが希薄になってきている現代社会において、自己の考えを発信していくことや多様な他者と関わっていくことは重要になっている。2年間の研究を経て、小中の結びつきが強まった今、児童生徒が15歳のゴールを見据え、進路を選択し夢に向かって羽ばたいていくには自らの考えを発信し他者と協働的に生き抜いていく力を身に付けていく必要がある。そこで、本年度は地域と関わり、発表や表現の機会を通して、他者や社会とつながりを広げる「生活科・総合的な学習の時間」に教科を限定し研究を行う。

以上のような研究の方向性を踏まえ、小中が今後もより一層連携協力しあい、9年間の発達段階に応じた指導や教育活動を実践していくことで、自ら学び、自身の意見を発信しながら他者に関わる児童生徒の育成を目指したいと考え、本主題を設定することとした。

III 研究の柱

- 児童生徒の主体性や課題解決に向かう意欲の向上
- 9年間を見通した生活科・総合的な学習の時間の授業づくり
- 9年間の系統性を意識した生活科・総合的な学習の時間のカリキュラムづくり